令和５年度廿日市市学力定着状況調査の結果より

廿日市市立廿日市小学校

＜第１学年＞

	本校	全国	60%未満
国語	77.8	74.8	18
算数	81.3	78.2	10

＜課題と取組＞

○国語科では，「はなしをききとる」という問題に対して，正答率が全国平均を下回った。「質問をする」という経験が少なく，日常生活でも，相手意識をもたせ，読んだり，書いたり話したりする経験を増やす。自分のこととしてとらえていくこと。

○算数科では，「なんばんめ」と「長さくらべ」の問題で，正答率が全国平均を下回った。たくさんの情報から，精査して，直感で解答するのではなく，しっかり読み込んで解答することが大切だと児童に伝えていくこと。※生活経験を増やし，言葉（紙面上の出来事）と活動（自分たちの経験）をリンクすることが大切。

＜第2学年＞

	本校	全国	60%未満
国語	85.6	79.3	5
算数	83	73.1	8

＜課題と取組＞

○国語科では，漢字の読み書きはできているが，漢字の正しい筆順や，メモの内容を読み取り，文章を付け足す問題に誤答が多かった。 筆順を唱えながら書くなどの指導の工夫をする。タブレットを活用して読み物に触れさせたり，問題に取り組ませたりする。メモから文を作る問題に多く取り組む。

○算数科では，かさの単位換算と誤答の説明の問題に誤答が多かった。体験活動を多くする。 授業の中で，誤答に理由をつけて説明する場面を増やす。

＜第3学年＞

	本校	全国	60%未満
国語	75	68.4	15
算数	81.1	69.9	10

＜課題と取組＞

○国語科では，文章の内容を正しく捉えることが難しい。既習の漢字が定着できていない。授業の中で音読をする時間を設け、文のまとまりを意識させる。字数制限を設けて文章を書かせる活動を取り入れる。日々の学習の中で、既習漢字を書かせる指導を行う。

○算数科では， 基礎的な計算など身に付いていることを図や式と関連付けて説明することが難しい。式の意味をペアなどで説明する活動を日常的に増やす。図を書いて考え、説明する活動を取り入れる。

＜第4学年＞

	本校	全国	60%未満
国語	74.3	64.2	20
算数	72	64.8	26

＜課題と取組＞

○国語科では， 段落の構成の意識や，文章の要約など書くことが難しい。自分の考えを書いたり伝えたりする活動や段落のまとまりと全体の構成を意識した授業を行う。

○算数科では，答えが分かっても，算数用語を使って説明することが難しい。説明を文章化したり，単位換算したりする練習を単元内に意図的に仕組む。

＜第5学年＞

	本校	全国	60%未満
国語	81.6	69.9	9
算数	69.9	58.3	25

＜課題と取組＞

○国語科では，修飾語の意味の理解，出た意見を聞いて自分でまとめること，文章全体を，キーワードを使ってまとめることに課題があった。短文から文の組み立てを確認していく必要がある。また，聞いたり読んだりして要旨をまとめていく活動をもっと取り入れていくようにする。

○算数科では，文章や図から式を考えて解く問題に課題があった。授業の中で，式がどうしてそうなったのか，図などを用いて説明する活動や，式から問題を作る活動を設定していく。また，直しをする時には，式と答えが合えば良いというだけでなく，図等を用いて一緒に考える場を持つようにしていく。

＜第6学年＞

	本校	全国	60%未満
国語	75.5	66.6	17
算数	77.5	73.8	16

＜課題と取組＞

○国語科では，要点を読み取る力，条件に合わせて文章を書く力，多角的に視る力が課題である。国語に限らず，いろいろな教科で話し合い活動を行い，自分の考えをもてるようにしていく。また，文章を読んで批判的に書く経験を積んでいく。

○算数科では，数量関係がつかめていない，文章問題を読んで図をイメージすることが難しい。情報を整理し，図をイメージしてから，式を書けるようにする。簡単な数字を入れ，自分が習ったことに置き換えて考えながら，問題を解けるようにしていく。